

⑧日本国特許庁 (JP)

⑨特許出願公開

⑩公開特許公報 (A) 昭62-176438

⑪Int.Cl.1

A 61 B 10/00
17/28識別記号 103
310厅内整理番号 M-7033-4C
6761-4C

⑫公開 昭和62年(1987)8月3日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑬発明の名称 生検用鉗子の改良

⑭特 願 昭61-128278

⑮出 願 昭61(1986)6月4日

優先権主張 ⑯1985年6月4日⑯フランス(FR)⑯8508387

⑰発明者 ジャン-マリー シン フランス國 パリ 75116 アブニュー ピクトル ウゴ
トゲン 45

⑱発明者 ブルン ゼタン フランス國 パリ 75655 リュ デュパンダン 23

⑲出願人 ジャン-マリー シン フランス國 パリ 75116 アブニュー ピクトル ウゴ
トゲン 45

⑳出願人 ブルン ゼタン フランス國 パリ 75655 リュ デュパンダン 23

㉑代理人 弁理士 関根 秀太

四月 細田 喬

とを特徴とする特許請求の範囲第2項又は第3項に記載の生検用鉗子

(5) 该シースは独立設置することを特徴とする特許請求の範囲4項に記載の生検用鉗子

(6) 该コントロール・ワイヤは、自動潤滑タイプの材質から成ることを特徴とする特許請求の範囲1項乃至第5項のいずれかに記載の生検用鉗子

(7) 该自動潤滑タイプの材質がチフロンを含むことを特徴とする特許請求の範囲第5項に記載の生検用鉗子

(8) 该コントロール・ワイヤがらせん状ワイヤの内部シース内に固定されていることを特徴とする特許請求の範囲第1項乃至第7項のいずれかに記載の生検用鉗子

(9) 该内部シースの巻き方向が外部シースの巻き方向とは逆であることを特徴とする特許請求の範囲第8項に記載の生検用鉗子

1. 発明の名称

生検用鉗子の改良

2. 特許請求の範囲

- (1) 2個の旋回あご部材用コントロール・ワイヤから成り、該コントロール・ワイヤはステンレススチール型らせん状ワイヤから成る可挠性シース内を通過している生検用鉗子において、シースの少なくとも一部の外側表面が研摩されてなめらかであることを特徴とする生検用鉗子
- (2) 该シースの研摩部外側の直徑が該シースの先端で減少していることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の生検用鉗子
- (3) 该シースの外端寸法の端がゆるやかであることを特徴とする特許請求の範囲第2項に記載の生検用鉗子
- (4) 该シースが少くとも一部の複合部材により組立てられる2個又はそれ以上の部材から成るこ

特開昭62-176438 (2)

3. 発明の詳細な説明

本発明は2個のスプーン又はあご部川のコントロール・ワイヤがステンレススチール製のらせん状ワイヤから成る可換性シース内に挿入している生検用鉗子に関するものである。

公知の生検用鉗子では、シースはステンレススチール製らせん状ワイヤから成り、先端部での可換性を改良する目的では、生検用鉗子によつては、ステンレススチール製部分内で細い直徑を持つシースを主シースに固定させている。この種の鉗子ははんだ付けを2回行わねばならず、シースを正しく挿入するのに余分の手間がかかる。

公知の生検用鉗子の他の欠点は、エンドスコープ内のみぞに挿入したシースの外側表面が円状になつていて凹凸があることである。この種の表面はニンドスコープのみぞの中へシースを挿入する障害物となり、バルブの早期摩耗を招き、尖端部の間に肉が入りこむことになる。

上記の状態を避けるために、生検用鉗子の中にはシースに例えればテフロン等のフィルムを被覆させシースの可換性を可変とすることも可能である。

先端に特に可換性をもたせることが必要な場合には、本発明によれば直徑の異なる2個又はそれ以上のシースを組立て、組立て又は軽ましくは組立後に外側表面を研磨して、連結部材を最終処理段階で研磨することもできる。

研磨は費用がかからず、工業的精度で行うことができる。テフロン被覆の場合はこの限りではない。

更に本発明による鉗子の軽ましい実験例では、コントロール・ワイヤはテフロンなどの自動織物材質のフィルムで被覆される。これにより滑りがよくなり、その結果生検用鉗子の取り扱いが容易となる。更に牽引が容易となり、生検用鉗子の寿命を延ばすことができる。

コントロール・ワイヤの滑り性をよくするため、例えば接着などにより該ワイヤをらせん状ワイヤ製シース内に、軽ましくは巻きの方向を外側のシースの巻き方向とは逆にして固定することも有効である。

せることがある。こうすれば滑りは完全ととはいからくとも改善されるが、一方ではみぞの中へシースを挿入する際に著しい変形が生じ、このためフィルムが被出しやすくなり、シースは表面がざらざらになり、肉がたまりやすくなる。

更にシース内のワイヤの滑りは通常良くない。

本発明はかかる公知の生検用鉗子の欠点を改善しようとするものである。この目的を達成するために、本発明による生検用鉗子の生たる特徴の一つによると、シースの少くとも一部を研磨した表面とした。円滑な表面は、外観が美しいばかりでなくシースをエンドスコープのみぞの中へ連続的な動きで挿入することを可能とし、ステンレススチール製のらせん状ワイヤの尖端の間に異物が蓄積するのを防げることができる。

更に、シースの先端の直徑を小さくすることにより研磨することにより、挿入を妨げるような部分をふやさず、ハンド付けを2回行うことなしに一これは破損につながる一先端部の可換性を改良することができる。直徑を削減することにより、

このワイヤに固定した内部ワイヤは長さ方向に固定され、被覆をなす部位での切欠が容易となるが、単純なワイヤではこういう具合にはいかなかつた。

4. 図面の簡単な説明

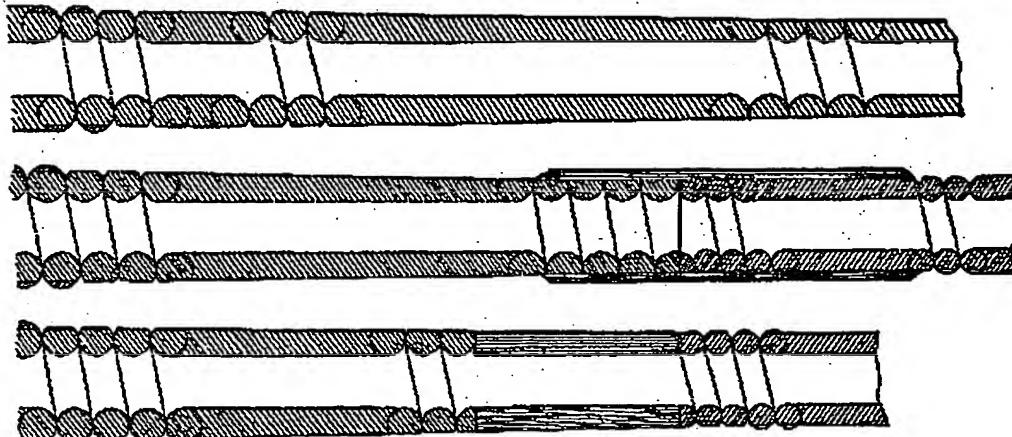
第一回は本発明実施例の一断面図であり、第二回は内部シース内に挿入したコントロール・ワイヤの断面図である。

特許出願代理人弁理士岡川秀太

特開昭62-176438(3)

図面の添付(内容に変更なし)

第一圖



特開昭62-176438(3)
62.2.3
明治61年8月26日

特許庁長官

第二圖

1. 事件の表示 昭和61年特許出願128278号

2. 発明の名称 生換用紐子の改良

3. 稽正をする者

事件との関係 特許出願人

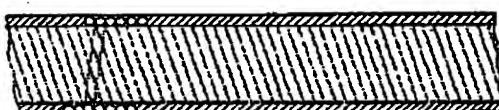
名 称 ジャン-マリー シントゼン(血一名)

4. 代理人

住 所 107 〒東京都港区北新宿1丁目2番1号

新宿ビル418 電話 403-5281

氏 名 (126) 奥田士 国根 勝大



5. 稽正命令の日付

起算日 昭和61年8月6日

発送日 昭和61年8月26日

6. 稽正により追加する発明の数 0

特許庁
62.2.3特許庁
61.9.19特許庁
61.9.19

特開昭62-176438 (4)

7. 説明の対象

- (1) 代理変を試する書面
- (2) 明細書における図面の簡単な説明
- (3) 適正な図面

8. 沈花の内容

- (1) 判定の通り
- (2) 明細書第 1 頁第 5 行目「第一回」を「第一回」と記述する
- (3) 別添の通り

9. 添付書類

- (1) 公伝証及び同様文 各 1 通
- (2) 図面 ~~明細書第 1 頁第 5 行目~~ 1 通

送付書類の原本は ~~明細書第 1 頁第 5 行目~~ の手続沈花書 (特開昭61-128173) に添付したものと想用します。